

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 肝内胆管癌手術症例における長期予後不良因子として高 CRP/ALB 比に関する検討</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 消化器外科 (研究責任者) 加納 久雄</p>
<p><研究期間> 承認日 ~ 西暦 2020 年 12 月 31 日</p>
<p><研究の目的と意義> 血清 CRP と血清アルブミン値 (Alb) を指標とした Glasgow prognostic score は様々な癌腫の長期予後の危険因子となることが報告されている。そこで今回、肝内胆管癌手術症例においても危険因子として評価できるかを検討する。また術前に危険因子として特定できれば術前栄養管理、抗炎症薬の投与による、予後改善がはかれる可能性があると考えられる。</p>
<p><利用する試料・情報の項目> 研究対象者基本情報：年齢、性別、肝炎の有無、食道静脈瘤の有無、ICGR 15 分値、CEA、CA19-9、血清 CRP、血清 Alb、腫瘍の大きさ、個数、腫瘍栓の有無など。手術因子：切除方法、術中出血量、輸血の有無、合併症など。術後因子：病理組織検査、肝硬変の有無、再発形式などを検討する。</p>
<p><対象となる患者さん> 2000 年から 2019 年の間で当院で肝内胆管癌と診断し治療を行なった方</p>
<p><研究の方法> 利用した試料、情報から術前の栄養状態、炎症の程度が手術後の予後に関わりがあるかを統計的に証明します。</p>
<p><お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 消化器外科 氏名:加納 久雄 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2471 (PHS)8759</p>